

# NDB を活用した研究のフェージビリティ向上に資する 基礎資料の開発

一般社団法人臨床疫学研究推進機構

バージョン	日付	内容
Version 0.1	2022年10月1日	初稿の作成

## 内容

1.	本研究の目的.....	3
2.	データ源について.....	3
2.1.	NDB サンプルングデータセット.....	3
2.2.	提供を依頼したデータ .....	3
2.3.	NDB 利用申出.....	3
3.	薬剤クラスごとの分析.....	4
3.1.	概要 .....	4
3.2.	集計単位 .....	5
3.3.	外来/入院の処方 .....	5
3.4.	年齢区分別・外来/入院の処方 .....	6
3.5.	外来/入院の上位 30 傷病 .....	6
3.6.	年齢区分別・外来/入院の上位 15 傷病 .....	6
3.7.	主たる適応症の診療期間別・外来の処方 .....	6
4.	今後の予定.....	6

## 1. 本研究の目的

レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) の第三者提供が開始されて 10 年以上が経過するものの、その研究成果は未だに乏しく、残念ながら研究成果を創出できる研究者はごく限られている。この背景として、商用レセプトデータベースを活用する場合と異なり、NDB では、適格基準に該当する患者数等を事前に見積もること (フィージビリティチェック) が困難であることが、一因であると考えている。本研究では、NDB サンプルングデータセットを活用して、NDB を活用した研究のフィージビリティ向上に資する基礎資料を開発することを目的とした。

なお、本研究は、一般社団法人臨床疫学研究推進機構の自主財源で実施している。

## 2. データ源について

### 2.1. NDB サンプルングデータセット

NDB とは、審査支払機関が保有している電子レセプトを、厚生労働省が収集・構築したデータベースを意味する。レセプトには、医療機関で行われた詳細な診療情報が記録されている。また、NDB サンプルングデータセットとは、NDB に格納された単月の入院レセプトと DPC レセプトから 10%、外来レセプトの患者から 1%の抽出率で、年齢を層とした層化無作為抽出されたデータセットである。なお、外来レセプトは、調剤レセプトと突合できるよう設計されている。

### 2.2. 提供を依頼したデータ

本研究では、2012 年 1 月診療分から 2020 年 1 月診療分の間 (各年 1 月、4 月、7 月、10 月) の、医科入院、医科入院外、DPC、調剤レセプトについてデータ提供を依頼した。

### 2.3. NDB 利用申出

2021 年 10 月 8 日に、レセプト情報等の提供に関する申出を行った。2022 年 1 月 12 日に、厚生労働省よりレセプト情報等の提供に関する承諾を得た。2022 年 7 月 25 日に、厚生労働省よりレセプト情報等が記録された媒体が送付された。

### 3. 薬剤クラスごとの分析

#### 3.1. 概要

薬剤クラスごとに、ある薬剤の処方を受けた患者数等を集計した。集計対象とした薬剤クラスは、以下のものとした。なお、各薬剤クラスに含まれる薬剤は、「今日の治療薬(2012年度から2020年度版)」を基に選択し、当該薬剤クラスの主な適応症を有するものに限定した。

- 1) 降圧薬
- 2) 脂質異常症治療薬
- 3) 糖尿病治療薬
- 4) 抗精神病薬
- 5) 抗うつ薬
- 6) 抗不安・睡眠薬
- 7) 気分安定薬
- 8) 抗認知症薬
- 9) ADHD 治療薬

## 3.2. 集計単位

### 3.2.1. 医薬品情報

- 外来レセプトあるいは調剤レセプトの IY レコードを医薬品情報の情報源とした。集計単位は，診療年月ごとの患者 ID (ID1n) とした。
- 入院レセプトあるいは DPC レセプトの IY レコード，DPC レセプトの CD レコードを医薬品情報の情報源とした。集計単位は，診療年月ごとのレセプト ID (通番 2) とした。

### 3.2.2. 傷病名情報

- 外来レセプトの SY レコードを傷病名情報の情報源とした。集計単位は，診療年月ごとの患者 ID (ID1n) とした。
- 入院レセプトあるいは DPC レセプトの SY レコード，DPC レセプトの SB レコードを傷病名情報の情報源とした。集計単位は，診療年月ごとのレセプト ID (通番) とした。

## 3.3. 外来/入院の処方 (別表 A1~A2)

- 外来入院区分×診療年月ごとに，ある薬剤の処方を受けた患者数を集計した。
- ある患者に一般名が同じ複数の規格が同月に処方される場合は，1名として計上した。

### 3.4. 年齢区分別・外来/入院の処方 (別表 A3~A4)

- 年齢区分×外来入院区分×診療年月ごとに、ある薬剤の処方を受けた患者数を集計した。
- ある患者に一般名が同じ複数の規格が同一月に処方される場合は、1名として計上した。
- 年齢区分は、0~9歳/10~19歳/(中略)/90~99歳/100歳以上とした。

### 3.5. 外来/入院の上位 30 傷病 (別表 A5~A6)

- 外来入院区分×診療年月ごとに、ある傷病名コードを有する患者数を集計した。
- ある患者に同じ傷病名コードが複数付与されている場合は、1名として計上した。
- 傷病名コードを基に患者数が上位 30 の傷病名を抽出した。

### 3.6. 年齢区分別・外来/入院の上位 15 傷病 (別表 A7~A8)

- 年齢区分×外来入院区分×診療年月ごとに、ある傷病名コードを有する患者数を集計した。
- ある患者に同じ傷病名コードが複数付与されている場合は、1名として計上した。
- 傷病名コードを基に患者数が上位 15 の傷病名を抽出した。
- 年齢区分は、0~9歳/10~19歳/(中略)/90~99歳/100歳以上とした。

### 3.7. 主たる適応症の診療期間別・外来の処方 (別表 A9)

- 当該薬剤クラスの主な適応症の傷病名 (e.g., 降圧薬の場合は高血圧症) を有する外来患者に制限した。
- 当該薬剤クラスの当該診療月の最終処方日 (SY レコード) から主な適応症の最も古い診療開始日 (SY レコード) を引いて1を足すことにより、診療期間を1~365日/366~1825日/1825日超に区分した。最終処方日あるいは診療開始日が欠測しているレコードあるいは診療期間が0日以下になるレコードは、分析対象から除外した。
- 診療期間×診療年月ごとに、ある薬剤の処方を受けた患者数を集計した。
- ある患者に一般名が同じ複数の規格が同一月に処方される場合は、1名として計上した。

## 4. 今後の予定

- 1) 他の薬剤クラスの分析結果を追加する。
- 2) フィージビリティ向上に資する分析方針の意見を募り、分析結果を追加する。
- 3) ダブルプログラミングを実施する。
- 4) 解析データセット構築過程のドキュメントとプログラムを公開する。